

調査報告

横浜国立大学教育学部の学校インターンシップ科目「スクールデー実践A・B・C」における2018年度・2019年度学生の事後調査結果の報告

横浜国立大学教育学部
鬼藤 明仁, 高芝 麻子

1. はじめに

1.1. 「スクールデー実践A・B・C」実施までの経緯

近年、学校教員養成機関である大学の教員養成課程において、理論と実践の往還による指導力の育成が重要であることは言を俟たない。横浜国立大学教育学部では2018年度より「スクールデー実践A・B・C」の授業を開講した。これにより教員養成課程として、1年生「教育実地研究」、2年生「スクールデー実践A・B・C」、3年生「教育実習」、4年生「教職実践演習」との系統的な学校現場実習が整うことになった。

「スクールデー実践A・B・C」の授業設置の時期は、教育人間科学部が教育学部に改組された（都市科学部が設置された）タイミングであった。また、2017年に文部科学省が出した、教育職員免許法の改正と教職課程コアカリキュラムの方針に基づき、諸授業を整備するタイミングでもあった。

「スクールデー実践A・B・C」の構想は、2016年度に教育学部カリキュラム・入試検討委員会で検討された。学校現場実習の授業として当時既に一定の成果を上げていた、初等・中等教育フィールドワーク、学外活動Ⅱ（学校ボランティア）、学外活動Ⅲ（わくわくサタデー、がやっこ探検隊）の内容を取り込んで構成し、学校現場から大学に学生が移動する時間を考慮し、「スクールデー実践A・B・C」を配置する曜日（スクールデーと呼称）は、他の授業を入れないことになった（最終的には4時間目以降は授業を入れられるようになった）。意見収集や構想の修正は、同学部学校教育課程教員会議で行われた。例えば、A・B・Cの学生人数は全体の3分の1を目安とするが学生が自由に選択すること、現場実習する学校が不足しないように学生の半数ずつを春・秋学期に分けて実施すること、BやCは教職カリキュラム委員が担当することなどが決定された。2017年度に、教職カリキュラム委員会が「スクールデー実践A・B・C」の実施準備として、シラバス作成、横浜市教育委員会との協定書作成、学生への説明会・選択調査を行った。

1.2. 「スクールデー実践A・B・C」の内容

「スクールデー実践A・B・C」は、学部教育科目における専門科目の中の「学校インターンシップ科目」の中に位置付けられ、学生はA・B・Cから1つ選択して必ず単位取得することになる。対象学年は2年生とし、1年時の「教育実地研究」での学びを発展させる内容、3年時の「教育実習」の前段階の内容となる。

期間は半期（春学期：4月～7月、秋学期：10月～1月）、活動時間帯は金曜日1～3時間目となった。春学期に社会・数学・音楽・美術・家政・英語・特別支援教育専門領域の学生が、秋学期に教育基礎・心理発達・日本語教育・国語・理科・保健体育・技術専門領域の学生が参加した。スクールデー実践A・B・Cの各内容は次の通りである。

スクールデー実践A（教材研究）：大学構内で専攻ごとにその専門的見地から教材理解・教材開発に取り組む。大学教員が引率して学生グループが地域の学校で授業見学して教材を見ることや、開発した教材を教師や子どもたちに見る活動も含まれる。

スクールデー実践B（初等教育フィールドワーク研究）：学生1～5名グループが横浜市小学校に10回程度行く。SV（退職した元校長、大学が依頼）の指導の下、授業見学、協議会、レポート作成等を行う。

スクールデー実践C（アシスタント・ティーチャー）：学生が個人で、神奈川県下小中学校に10回程度行く。通常の学校ボランティアと同様、その学校で求められる学習支援に取り組む。各学期の第8週に、大学構内で担当教員の下、中間報告会を行う。

各学期最終週には全体報告会が開催される。A・B・Cの学生が一堂に会し、発表や質疑応答を通して互恵的に教師力を高められる機会となる。

2. 学生の事後調査の実施

本稿では、初年度である2018年度及び2019年度の「スクールデー実践A・B・C」で実施した、学生の事後調査
教育デザイン研究 第12号（2021年1月）104

の集計結果を報告する。

2.1. 対象と方法

調査対象は、横浜国立大学教育学部学校教育課程に在籍する2年生である。2018年度及び2019年度の「スクールデー実践A・B・C」の各学生人数を表1に示す。

表1 スクールデー実践A・B・Cの学生人数

		2018年度	2019年度
スクールデー実践A	人数	116	98
	割合	49.8%	43.2%
スクールデー実践B	人数	46	17
	割合	19.7%	7.5%
スクールデー実践C	人数	71	112
	割合	30.5%	49.3%
合計人数		233	227

事後調査は、各学期最終週（春学期は7月、秋学期は1月）の全体報告会の終了時に実施された。教職カリキュラム委員が質問紙を配布・回収した。

質問紙は、選択肢で回答する20項目及び、全体報告会について自由記述形式で回答する1項目で構成される。後者の集計については本稿では紙面の都合上割愛する。質問項目の内容、選択肢については表2～21に示す。

集計結果では20項目を5つのカテゴリー、すなわち「子どもと関わるボランティア経験の有無」、「教職志望度合」、「スクールデー実践の評価」、「教師に求められる資質」、「子どもへの指導」に分けることにした。

2.2. 集計結果

2.2.1. 子どもと関わるボランティア経験の有無

子どもと関わるボランティアの経験がある学生の人数を表2に示す。選択肢は「あり」と「なし」であり、「あり」を回答した人数を集計している。

表2から、「学生ボランティアの学習支援の経験」や「宿泊体験学習補助の経験」がある学生人数の合計は、2018年度から2019年度にかけて増加していることがわかる。教員採用試験における面接や小論文では、子どもと関わるボランティアの経験があると答えやすい場面が見受けられる。教育学部の春学期始めの全体オリエンテーションや、学外活動支援委員会の説明会、学生ボランティアについて知識がある大学教員の声掛けなどで周知が図られており、その成果が表れていると推察される。「上記以外の、子どもと関わったボランティアの経験」についても学生人数が増加傾向にあり、上述の経験人数

表2 子どもと関わるボランティアの経験がある学生の人数

		2018年度		2019年度	
学生ボランティアの学習支援の経験について	A	15	A	20	
	N=116	12.9%	N=98	20.4%	
	B	24	B	7	
	N=46	52.2%	N=17	41.2%	
	C	24	C	63	
N=71	33.8%	N=112	56.3%		
合計	63	合計	90		
N=233	27.0%	N=227	39.6%		
宿泊体験学習補助の経験について	A	18	A	26	
	N=116	15.5%	N=98	26.5%	
	B	21	B	10	
	N=46	45.7%	N=17	58.8%	
	C	19	C	36	
N=71	26.8%	N=112	32.1%		
合計	58	合計	72		
N=233	24.9%	N=227	31.7%		
わくわくサタデーorがやっこ探検隊の経験について	A	12	A	14	
	N=116	10.3%	N=98	14.3%	
	B	15	B	3	
	N=46	32.6%	N=17	17.6%	
	C	15	C	19	
N=71	21.1%	N=112	17.0%		
合計	42	合計	36		
N=233	18.0%	N=227	15.9%		
上記以外の、子どもと関わったボランティアの経験について	A	30	A	39	
	N=116	25.9%	N=98	39.8%	
	B	19	B	12	
	N=46	41.3%	N=17	70.6%	
	C	20	C	52	
N=71	28.2%	N=112	46.4%		
合計	69	合計	103		
N=233	29.6%	N=227	45.4%		

※ 表中A, B, Cは、それぞれスクールデー実践A, スクールデー実践B, スクールデー実践Cの略（以下同様）。パーセント表示は、A～Cの各学生人数(N)を分母とする割合を表している（以下同様）。

と勘案すると、複数のボランティア経験がある学生も相当数存在すると窺われる。「わくわくサタデー」や「がやっこ探検隊」の経験がある学生数は、2018年度から2019年度にかけてやや減少していた。これらの学生団体は、レクリエーションや体験学習を企画・運営する主体者としてボランティア活動を行う内容であり、教師力の向上に向けてその面での成長が見込まれることから、減少傾向が続かないように注視していきたい。

2.2.2. 教職志望度合

表3によると、学生の教職志望度合について、2018年度の学生合計では「1.とてもそう思う」が25.8%、「2.ややそう思う」が31.3%であり、合算すると57.1%と大半の学生が教職を志望していた。2019年度では「1.とてもそう思う」が29.5%、「2.ややそう思う」が38.3%、合算して67.8%と3分の2以上の学生が教職を志望しており、2018年度から増加していた。A・B・Cを個別に見ると、スクールデー実践BやCに比べると、Aは低い傾向にあった。しかし、スクールデー実践Aにおいても、2018年度から2019年度にかけて「1.とてもそう思う」も「2.ややそう思う」も学生人数が増えており、「5.全くそう思わない」の人数は減少している。これらのことから、スクールデー実践A・B・Cいずれにおいても、大半の学生が教職志望であり、初年度である2018年度から2019年度にかけてその数値が伸びていることがわかる。

表4より、学生が教員就職で希望する学校種について、「1.小学校」教員を希望する学生は2018年度で合計学生人数の34.3%、2019年度で同41.4%と最も多かった。スクールデー実践Aでは、BやCと比べて「3.高校」教員を希望する学生が多かった。Aの内容は、「専門的見地から教材理解・教材開発に取り組む」ものであり、所

属専攻に関する専門性を高めたいと考えている学生がAを選択し、専門性を活かす学校種として「3.高校」を希望していると推察される。これまでより、本学教育学部において1・2年生時に高校教員を希望する学生数が一定数存在することが、学生進路意識調査で確認されている。スクールデー実践では履修学生の希望校種にあわせ、高校を含む各校種・教科に関わる専門的知見・情報を提供していくことも重要である。

スクールデー実践Bでは「1.小学校」教員を希望する学生が、AやCよりも多く、Bの学生の大半を占めていた。Bの内容は、「横浜市小学校に10回程度行く。SVの指導の下、授業見学、協議会、レポート作成等を行う。」ものであり、小学校教員を希望している学生がBを選択しているケースが多いことを表している。スクールデー実践Cでは「2.中学校」教員を希望する学生が、AやBよりも多かった。Cの内容は、「学生が個人で、神奈川県下小中学校に10回程度行く。通常の学校ボランティアと同様、その学校で求められる学習支援に取り組む。」ものであるが、中学校教員を希望している学生は中学校で勤務する経験を積むためにCを選択しているケースがある程度多いと推察される。

2.2.3. スクールデー実践の評価

「スクールデー実践の評価」に関する9項目の集計結

表3 スクールデー実践A・B・Cの事後調査における学生の教職志望度合
(「大学卒業後に教員として就職したいと思いますか」の集計結果)

2018年度	1.とてもそう思う	2.ややそう思う	3.どちらでもない	4.あまりそう思わない	5.全くそう思わない	回答率
A N=116	18 15.5%	28 24.1%	25 21.6%	20 17.2%	14 12.1%	105 90.5%
B N=46	22 47.8%	17 37.0%	4 8.7%	2 4.3%	0 0.0%	45 97.8%
C N=71	20 28.2%	28 39.4%	15 21.1%	5 7.0%	1 1.4%	69 97.2%
合計 N=233	60 25.8%	73 31.3%	44 18.9%	27 11.6%	15 6.4%	219 94.0%
2019年度						
A N=98	21 21.4%	34 34.7%	21 21.4%	19 19.4%	2 2.0%	97 99.0%
B N=17	6 35.3%	9 52.9%	1 5.9%	1 5.9%	0 0.0%	17 100.0%
C N=112	40 35.7%	44 39.3%	14 12.5%	11 9.8%	3 2.7%	112 100.0%
合計 N=227	67 29.5%	87 38.3%	36 15.9%	31 13.7%	5 2.2%	226 99.6%

※一部の項目を回答していない学生がいるため、回答率は100%にならない(以下同様)。

表4 スクールデー実践A・B・Cの事後調査における学生が教員就職で希望する学校種（「教員として就職する場合、どの学校種を考えていますか。最もあてはまるものに1つ○印をつけて下さい。」の集計結果）

2018年度	1. 小学校	2. 中学校	3. 高校	4. 特別支援学校	5. その他	6. 教員志望ではない	回答率
A N=116	15 12.9%	17 14.7%	37 31.9%	9 7.8%	3 2.6%	19 16.4%	81 69.8%
B N=46	36 78.3%	1 2.2%	4 8.7%	1 2.2%	1 2.2%	0 0.0%	43 93.5%
C N=71	29 40.8%	15 21.1%	18 25.4%	2 2.8%	1 1.4%	0 0.0%	65 91.5%
合計 N=233	80 34.3%	33 14.2%	59 25.3%	12 5.2%	5 2.1%	19 8.2%	189 81.1%
2019年度							
A N=98	35 35.7%	16 16.3%	33 33.7%	5 5.1%	4 4.1%	4 4.1%	93 94.9%
B N=17	9 52.9%	3 17.6%	2 11.8%	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%	16 94.1%
C N=112	50 44.6%	33 29.5%	19 17.0%	4 3.6%	2 1.8%	4 3.6%	108 96.4%
合計 N=227	94 41.4%	52 22.9%	54 23.8%	10 4.4%	7 3.1%	9 4.0%	217 95.6%

※5. その他の内容は、「まだ決めていない」「小学校と中学校とで迷っている」等。

果を、表5～13に示す。なお、本節以降で扱う17項目（表5～21）は、実際の質問紙では順序をある程度ランダム化して配置された。これは黙従傾向（類似の項目について回答者が内容をあまり読まないで回答する傾向）を抑制することを意図している。

表5及び表6によると、スクールデー実践の活動が充実していたかどうか、その経験を教育実習に結び付けられるかどうかについて、2018年度も2019年度も学生合計の大半が「1.とてもそう思う」と回答していた。「1.とてもそう思う」と「2.ややそう思う」の回答数を合算すると、85.4～92.1%と高い割合の学生が肯定的に捉えていた。

表7は目標を理解していたかどうか、表8は1年生時の「教育実地研究」での学びを発展させられたかについて2018・2019年度の回答結果を示しているが、「1.とてもそう思う」と「2.ややそう思う」の回答人数を合算すると、学生合計の65.3～84.6%が肯定的に捉えていたとわかる。表9より、理解が滞ることがなかったかについて、2018・2019年度の回答結果の「1.とてもそう思う」と「2.ややそう思う」の人数を合算すると、学生合計の63.4～63.5%が肯定的に捉えていた。

これらの結果から、スクールデー実践A・B・Cにつ

表5 「あなたにとってスクールデー実践の活動は充実していましたか」の集計結果

2018年度	1. とてもそう思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	46 39.7%	45 38.8%	7 6.0%	5 4.3%	1 0.9%
B N=46	39 84.8%	6 13.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
C N=71	40 56.3%	23 32.4%	3 4.2%	3 4.2%	0 0.0%
合計 N=233	125 53.6%	74 31.8%	10 4.3%	8 3.4%	1 0.4%
2019年度					
A N=98	52 53.1%	35 35.7%	4 4.1%	6 6.1%	1 1.0%
B N=17	13 76.5%	3 17.6%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%
C N=112	66 58.9%	40 35.7%	5 4.5%	1 0.9%	0 0.0%
合計 N=227	131 57.7%	78 34.4%	10 4.4%	7 3.1%	1 0.4%

表6「スクールデー実践の経験を教育実習に結び付けられそうですか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	46 39.7%	49 42.2%	7 6.0%	3 2.6%	0 0.0%
B N=46	39 84.8%	6 13.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
C N=71	45 63.4%	20 28.2%	3 4.2%	1 1.4%	0 0.0%
合計 N=233	130 55.8%	75 32.2%	10 4.3%	4 1.7%	0 0.0%

2019年度

A N=98	41 41.8%	41 41.8%	6 6.1%	5 5.1%	5 5.1%
B N=17	12 70.6%	5 29.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
C N=112	76 67.9%	32 28.6%	3 2.7%	1 0.9%	0 0.0%
合計 N=227	129 56.8%	78 34.4%	9 4.0%	6 2.6%	5 2.2%

表7「あなたが選んだスクールデー実践の活動が目標としていたことを理解していましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	30 25.9%	56 48.3%	15 12.9%	4 3.4%	0 0.0%
B N=46	18 39.1%	24 52.2%	2 4.3%	1 2.2%	0 0.0%
C N=71	6 8.5%	52 73.2%	3 4.2%	5 7.0%	0 0.0%
合計 N=233	54 23.2%	132 56.7%	20 8.6%	10 4.3%	0 0.0%

2019年度

A N=98	26 26.5%	54 55.1%	10 10.2%	6 6.1%	2 2.0%
B N=17	9 52.9%	8 47.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
C N=112	33 29.5%	62 55.4%	11 9.8%	6 5.4%	0 0.0%
合計 N=227	68 30.0%	124 54.6%	21 9.3%	12 5.3%	2 0.9%

表8「教育実地研究(1年秋学期)で得た課題意識(出来なかったことを補いたい、見つかったやりたいことをもっとやりたい、分からなかったことを知りたい)について、スクールデー実践の活動で取り組むことができましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	23 19.8%	44 37.9%	23 19.8%	15 12.9%	0 0.0%
B N=46	16 34.8%	20 43.5%	7 15.2%	2 4.3%	0 0.0%
C N=71	11 15.5%	38 53.5%	12 16.9%	7 9.9%	1 1.4%
合計 N=233	50 21.5%	102 43.8%	42 18.0%	24 10.3%	1 0.4%

2019年度

A N=98	10 10.2%	55 56.1%	19 19.4%	9 9.2%	5 5.1%
B N=17	6 35.3%	8 47.1%	1 5.9%	1 5.9%	1 5.9%
C N=112	27 24.1%	58 51.8%	14 12.5%	13 11.6%	0 0.0%
合計 N=227	43 18.9%	121 53.3%	34 15.0%	23 10.1%	6 2.6%

表9「あなたが選んだスクールデー実践の過程においての理解が滞ることはなかったですか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	21 18.1%	44 37.9%	28 24.1%	11 9.5%	1 0.9%
B N=46	14 30.4%	22 47.8%	6 13.0%	0 0.0%	3 6.5%
C N=71	7 9.9%	40 56.3%	10 14.1%	7 9.9%	2 2.8%
合計 N=233	42 18.0%	106 45.5%	44 18.9%	18 7.7%	6 2.6%

2019年度

A N=98	13 13.3%	45 45.9%	19 19.4%	13 13.3%	8 8.2%
B N=17	3 17.6%	7 41.2%	3 17.6%	4 23.5%	0 0.0%
C N=112	16 14.3%	60 53.6%	26 23.2%	8 7.1%	1 0.9%
合計 N=227	32 14.1%	112 49.3%	48 21.1%	25 11.0%	9 4.0%

表 10 「A～C 選択前の前年度 11 月にあった説明会について分かりやすかったですか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	6 5.2%	34 29.3%	43 37.1%	18 15.5%	4 3.4%
B N=46	8 17.4%	15 32.6%	15 32.6%	7 15.2%	0 0.0%
C N=71	1 1.4%	31 43.7%	17 23.9%	18 25.4%	2 2.8%
合計 N=233	15 6.4%	80 34.3%	75 32.2%	43 18.5%	6 2.6%

2019年度

A N=98	6 6.1%	45 45.9%	25 25.5%	19 19.4%	3 3.1%
B N=17	1 5.9%	6 35.3%	6 35.3%	3 17.6%	1 5.9%
C N=112	20 17.9%	50 44.6%	29 25.9%	11 9.8%	2 1.8%
合計 N=227	27 11.9%	101 44.5%	60 26.4%	33 14.5%	6 2.6%

表 11 「あなたが選択した活動の第 1 回目授業のオリエンテーションは分かりやすかったですか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	30 25.9%	39 33.6%	27 23.3%	9 7.8%	0 0.0%
B N=46	9 19.6%	30 65.2%	4 8.7%	2 4.3%	0 0.0%
C N=71	7 9.9%	36 50.7%	17 23.9%	9 12.7%	0 0.0%
合計 N=233	46 19.7%	105 45.1%	48 20.6%	20 8.6%	0 0.0%

2019年度

A N=98	32 32.7%	41 41.8%	19 19.4%	5 5.1%	1 1.0%
B N=17	4 23.5%	7 41.2%	5 29.4%	1 5.9%	0 0.0%
C N=112	28 25.0%	51 45.5%	22 19.6%	7 6.3%	2 1.8%
合計 N=227	64 28.2%	99 43.6%	46 20.3%	13 5.7%	3 1.3%

表 12 「あなたにとってスクールデー実践の活動は疲労感の残るものでしたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	11 9.5%	30 25.9%	24 20.7%	34 29.3%	5 4.3%
B N=46	6 13.0%	27 58.7%	4 8.7%	7 15.2%	1 2.2%
C N=71	8 11.3%	40 56.3%	8 11.3%	13 18.3%	0 0.0%
合計 N=233	25 10.7%	97 41.6%	36 15.5%	54 23.2%	6 2.6%

2019年度

A N=98	8 8.2%	31 31.6%	18 18.4%	38 38.8%	3 3.1%
B N=17	7 41.2%	5 29.4%	2 11.8%	3 17.6%	0 0.0%
C N=112	23 20.5%	57 50.9%	15 13.4%	13 11.6%	4 3.6%
合計 N=227	38 16.7%	93 41.0%	35 15.4%	54 23.8%	7 3.1%

表 13 「スクールデー実践を通じて、教師になりたい気持ちは増しましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	13 11.2%	19 16.4%	47 40.5%	13 11.2%	13 11.2%
B N=46	28 60.9%	13 28.3%	3 6.5%	0 0.0%	1 2.2%
C N=71	15 21.1%	26 36.6%	11 15.5%	13 18.3%	1 1.4%
合計 N=233	56 24.0%	58 24.9%	61 26.2%	26 11.2%	15 6.4%

2019年度

A N=98	12 12.2%	21 21.4%	46 46.9%	13 13.3%	6 6.1%
B N=17	8 47.1%	6 35.3%	2 11.8%	1 5.9%	0 0.0%
C N=112	23 20.5%	35 31.3%	35 31.3%	16 14.3%	3 2.7%
合計 N=227	43 18.9%	62 27.3%	83 36.6%	30 13.2%	9 4.0%

表 14 「それぞれの組織の方針やきまりを理解し、その一員として活動することはできましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A	24	55	19	3	1
N=116	20.7%	47.4%	16.4%	2.6%	0.9%
B	14	25	5	1	0
N=46	30.4%	54.3%	10.9%	2.2%	0.0%
C	14	43	6	3	0
N=71	19.7%	60.6%	8.5%	4.2%	0.0%
合計	52	123	30	7	1
N=233	22.3%	52.8%	12.9%	3.0%	0.4%

2019年度

A	31	51	12	4	0
N=98	31.6%	52.0%	12.2%	4.1%	0.0%
B	6	9	2	0	0
N=17	35.3%	52.9%	11.8%	0.0%	0.0%
C	32	64	12	4	0
N=112	28.6%	57.1%	10.7%	3.6%	0.0%
合計	69	124	26	8	0
N=227	30.4%	54.6%	11.5%	3.5%	0.0%

表 15 「教職員、保護者や地域の方々に挨拶ができましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A	46	29	19	5	3
N=116	39.7%	25.0%	16.4%	4.3%	2.6%
B	30	14	1	0	0
N=46	65.2%	30.4%	2.2%	0.0%	0.0%
C	35	27	3	1	0
N=71	49.3%	38.0%	4.2%	1.4%	0.0%
合計	111	70	23	6	3
N=233	47.6%	30.0%	9.9%	2.6%	1.3%

2019年度

A	46	27	20	1	4
N=98	46.9%	27.6%	20.4%	1.0%	4.1%
B	8	9	0	0	0
N=17	47.1%	52.9%	0.0%	0.0%	0.0%
C	75	32	4	1	0
N=112	67.0%	28.6%	3.6%	0.9%	0.0%
合計	129	68	24	2	4
N=227	56.8%	30.0%	10.6%	0.9%	1.8%

表 16 「先生(教員、SV など)や友人からのアドバイスに耳を傾け、自らを改善しようと思いましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A	33	52	16	2	0
N=116	28.4%	44.8%	13.8%	1.7%	0.0%
B	32	12	1	0	0
N=46	69.6%	26.1%	2.2%	0.0%	0.0%
C	21	34	9	1	0
N=71	29.6%	47.9%	12.7%	1.4%	0.0%
合計	86	98	26	3	0
N=233	36.9%	42.1%	11.2%	1.3%	0.0%

2019年度

A	36	49	11	2	0
N=98	36.7%	50.0%	11.2%	2.0%	0.0%
B	13	4	0	0	0
N=17	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%
C	43	56	12	1	0
N=112	38.4%	50.0%	10.7%	0.9%	0.0%
合計	92	109	23	3	0
N=227	40.5%	48.0%	10.1%	1.3%	0.0%

表 17 「各回の活動後、自らが改善点を自覚し、どうすれば良くなるかを考えることができましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A	23	66	10	3	0
N=116	19.8%	56.9%	8.6%	2.6%	0.0%
B	21	21	3	0	0
N=46	45.7%	45.7%	6.5%	0.0%	0.0%
C	15	44	3	4	0
N=71	21.1%	62.0%	4.2%	5.6%	0.0%
合計	59	131	16	7	0
N=233	25.3%	56.2%	6.9%	3.0%	0.0%

2019年度

A	22	62	10	4	0
N=98	22.4%	63.3%	10.2%	4.1%	0.0%
B	9	6	2	0	0
N=17	52.9%	35.3%	11.8%	0.0%	0.0%
C	35	66	8	3	0
N=112	31.3%	58.9%	7.1%	2.7%	0.0%
合計	66	134	20	7	0
N=227	29.1%	59.0%	8.8%	3.1%	0.0%

表 18 「常に向上しようという前向きな気持ちで、学び続ける姿勢を身に付けられましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	26 22.4%	55 47.4%	19 16.4%	4 3.4%	1 0.9%
B N=46	29 63.0%	15 32.6%	1 2.2%	0 0.0%	0 0.0%
C N=71	16 22.5%	42 59.2%	7 9.9%	1 1.4%	0 0.0%
合計 N=233	71 30.5%	112 48.1%	27 11.6%	5 2.1%	1 0.4%

2019年度

A N=98	21 21.4%	56 57.1%	16 16.3%	4 4.1%	1 1.0%
B N=17	7 41.2%	9 52.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
C N=112	34 30.4%	65 58.0%	11 9.8%	2 1.8%	0 0.0%
合計 N=227	62 27.3%	130 57.3%	27 11.9%	6 2.6%	1 0.4%

表 19 「時間やものなどを効果的に活用する力は身につきましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	28 24.1%	55 47.4%	14 12.1%	8 6.9%	0 0.0%
B N=46	10 21.7%	25 54.3%	8 17.4%	2 4.3%	0 0.0%
C N=71	5 7.0%	41 57.7%	14 19.7%	6 8.5%	0 0.0%
合計 N=233	43 18.5%	121 51.9%	36 15.5%	16 6.9%	0 0.0%

2019年度

A N=98	22 22.4%	57 58.2%	12 12.2%	7 7.1%	0 0.0%
B N=17	4 23.5%	12 70.6%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%
C N=112	19 17.0%	56 50.0%	27 24.1%	10 8.9%	0 0.0%
合計 N=227	45 19.8%	125 55.1%	40 17.6%	17 7.5%	0 0.0%

表 20 「教職を目指す情熱を持ち、児童生徒に愛情をもって接することができましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	17 14.7%	34 29.3%	40 34.5%	6 5.2%	4 3.4%
B N=46	32 69.6%	10 21.7%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%
C N=71	26 36.6%	36 50.7%	2 2.8%	2 2.8%	0 0.0%
合計 N=233	75 32.2%	80 34.3%	44 18.9%	8 3.4%	4 1.7%

2019年度

A N=98	28 28.6%	30 30.6%	31 31.6%	3 3.1%	5 5.1%
B N=17	13 76.5%	3 17.6%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%
C N=112	52 46.4%	49 43.8%	7 6.3%	3 2.7%	0 0.0%
合計 N=227	93 41.0%	82 36.1%	38 16.7%	7 3.1%	5 2.2%

表 21 「声の大きさ、立ち位置、板書や発問の仕方等の基本的な指導技術を知ることができましたか」の集計結果

2018年度	1. とても思う	2. ややそう思う	3. どちらでもない	4. あまりそう思わない	5. 全くそう思わない
A N=116	18 15.5%	39 33.6%	26 22.4%	14 12.1%	4 3.4%
B N=46	26 56.5%	17 37.0%	1 2.2%	1 2.2%	0 0.0%
C N=71	16 22.5%	33 46.5%	9 12.7%	6 8.5%	2 2.8%
合計 N=233	60 25.8%	89 38.2%	36 15.5%	21 9.0%	6 2.6%

2019年度

A N=98	16 16.3%	38 38.8%	28 28.6%	10 10.2%	6 6.1%
B N=17	6 35.3%	10 58.8%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%
C N=112	33 29.5%	50 44.6%	17 15.2%	11 9.8%	1 0.9%
合計 N=227	55 24.2%	98 43.2%	46 20.3%	21 9.3%	7 3.1%

いて、ほとんどの学生が充実感をもち、教育実習に結び付けられると捉えていることが明らかになった。また、多くの学生が目標を理解しており、1年生時の学びを発展させることが出来、過程において理解が滞ることはなかったと捉えていた。これらのことは、スクールデー実践 A・B・C が当初計画の通り順調に実施されたことを意味していると考えられる。

A・B・Cを比較すると、Bの学生は、上述の多くの項目において肯定的な回答の学生の割合が最も高かった。スクールデー実践BはSV(退職した元校長)の指導の下で授業見学及び協議を行う内容であり、選択する学生人数はAやCより少ないものの、教育実習の事前学習の役割として最も効果が高かったと推察される。

スクールデー実践Cも、充実していたかどうか、教育実習に結び付けられるかどうかについて、学生の大半が「1.とてもそう思う」と回答していた。Cの内容は、学生が個人で神奈川県下小中学校に10回程度行き、学習支援等に取り組むものであるが、学生の中には3年次の教育実習校に行く者や、教育実習先が決まっていないのでそれを依頼するために行く者がいる。また、内容もその学校で求められる活動を行うので、学生が承認欲求を満たしやすと考えられる。Cについても、教育実習の事前学習の役割の効果は高いといえる。

表10及び表11は、スクールデー実践A・B・Cの前年度の説明会や第1回授業のオリエンテーションについて、分かりやすかったかどうかの集計結果を示している。初年度である2018年度から2年目の2019年度にかけて肯定的な回答の割合が高まっている。スクールデー実践の仕組みは、A・B・Cを選択してさらにAでは専攻別に分かれて活動するなどシステム面でやや難解な点が見られる。2018年度の説明会での肯定的回答が少なかったのはそのためであろう。一方、2019年度に見られた肯定的な回答の割合の上昇は、学生間で学年を超えた積極的な情報共有がなされたこと、特に2019年度の説明会に前年度履修した学生が出席し活動を学生の立場から紹介したことなどによって、前年度に比べ履修前の学生がスクールデー全体を把握しやすい状況となったことの反映と考えられる。今後、年度が進み、教員による説明会や既修の学生たちによる情報提供など、履修前の学生がスクールデー実践に関する必要な情報を得られる土壌が整えられていく中で、それぞれの学生のニーズにあったより適正な選択が可能となり、実習に結びつく、効果的

な活動が行いやすくなるのではないかと推察される。

表12は、スクールデー実践の活動に対する学生の疲労感についての集計結果である。2018年度も2019年度もBやCでは「2.ややそう思う」の回答人数が最も多いが、Aでは「4.あまりそう思わない」が最も多かった。学生にとって学校現場で活動することは疲労感あることがわかる。

表13は、スクールデー実践を通して教師になりたい気持ちが増しましたかどうかについての集計結果である。2018年度も2019年度もBでは「1.とてもそう思う」の回答人数が最も多かったが、一方、「3.どちらでもない」や「4.あまりそう思わない」と回答した学生も一部見られた。AやCでは「3.どちらでもない」の回答人数が最も多かった。「3.どちらでもない」や「4.あまりそう思わない」と回答した学生の中には、事前の段階で教員志望と回答している学生の割合が高い。教員となることを決めている学生にとってはスクールデー実践を経ても教員志望の気持ちが変わらないことから、教師になりたい気持ちが増さなかった旨の回答を選んだ者も含まれているのではないかと推察される。

2.2.4. 教師に求められる資質

表14～19は、「教師に求められる資質」に関する項目の集計結果を示している。「組織の方針やきまりを理解し、その一員として活動できたか」(表14)、「教職員等に挨拶できたか」(表15)、「先生や友人からのアドバイスに耳を傾けられたか」(表16)、「改善点を自覚し、どうすれば良くなるか考えたか」(表17)、「学び続ける姿勢を身に付けられたか」(表18)、「時間やものを活用する力は身についたか」(表19)について、2018年度も2019年度も、スクールデー実践A～Cのいずれにおいても、全体の8割程度の学生が「1.とてもそう思う」もしくは「2.ややそう思う」と回答していた。特にBでは、「1.とてもそう思う」を回答している学生の割合が比較的高かった。これらの「教師に求められる資質」に関する内容については、学生の自己評価ではあるものの、概ね身に付けられているようである。

2.2.5. 子どもへの指導

表20及び表21は、「子どもへの指導」に関する項目の集計結果を示している。「教職への情熱、児童生徒への愛情をもてたか」(表20)、「声の大きさ、板書など基本的な指導技術を知れたか」(表21)について、2018年度及び2019年度の学生合計の64.0%～77.1%が、「1.

とてもそう思う」もしくは「2.ややそう思う」と回答していた。A・B・Cの内訳を見ると、スクールデー実践BやCにおいて「子どもへの指導」に関する学びがよく行われていることがわかる。

3. おわりに

横浜国立大学教育学部「スクールデー実践A・B・C」の授業は、教職カリキュラム上でより高い教師力を育成するべく、2018年度より実施されている。学校現場実習として一定の成果を上げてきた、初等教育フィールドワークのB、学校ボランティアのCを軸に教材研究のAを加えた構成で、A～Cより学生が1つ選択して取り組む形式は、本学教育学部の独自の授業として、学外でも認知され始めている。今後、全国の教員養成課程で学校インターンシップが広まれば、スクールデー実践Cと関連付けることも可能だろう。

本稿は、初年度である2018年度及び2019年度のスク

ールデー実践A・B・Cの事後調査結果を報告するものであった。「スクールデー実践の評価」、「教師に求められる資質」、「子どもへの指導」に関する項目の集計結果では「1.とてもそう思う」や「2.ややそう思う」と回答する学生の割合が高く、スクールデー実践を通して教師力が育成されていることが確認された。

これまでの本学教育学部の学生進路意識調査において、入学後に非教員志望へ進路変更する学生は、教育実習で「教職の苦勞」の大きさを知ることが契機となっているケースがあると知られている。2年生時のスクールデー実践は、3年生時の教育実習の前段階として位置付けられており、学生が円滑に教育実習を行うために学校現場で必要な能力を身に付けることや、「教職の苦勞」を適度に理解できるようになる役割を担っていると考えられる。今後は、スクールデー実践と教育実習との接続性について、教育実習の事後調査データと合わせて分析・検討する必要があるだろう。